

輸出事業計画

※申請者名：株式会社マイセンファインフード

品目：大豆加工品（プラントベースドフード）

1. 輸出における現状と課題

創業当初より、自社工場で製造したプラントベースドフード商品の海外輸出を、主にベジタリアン市場をターゲットに取組みを試みており、2018年頃より国内卸売企業を通じた輸出展開の商流を確保。コロナ禍による現地ロックダウンや輸送費高騰により一時的な輸出落ち込みがあるも、着実に商流網は拡大している。また2020年度には国際認証FSSC22000を取得しており、海外顧客が希望する客観的な安全性担保にも取り組んでいる。

プラントベースドフードを取り巻く世界マーケットは拡大の一途をたどっており、世界の代替肉市場規模は供給側の技術革新および更なるニーズの高まりによりCAGR15%(2019年-2029年)で成長、2029年には48.8千億円に達すると予想されており、市場成長性の見込みも外部調査内容の結果において高水準を示す。加えて畜産による環境汚染(反芻動物のゲップによる温暖化、糞尿による土壌・水質汚染等)も課題とされており、畜産肉の代替として、植物性原料をもとにしたプラントベースドフードは輸出事業として十分に成長可能性を有するカテゴリーであり、当社も経営資源の集中および親会社である亀田製菓株式会社の海外拠点・営業網を活用し、輸出拡大による成長を狙う。

こうした海外市場の動きと取引先からのニーズをふまえ、今後は国産大豆等を利用した新たなタイプのプラントベースドフードの製造にも取り組み、新たな海外需要の獲得を図りたいと考えているが、そのための新たな製造装置の導入や、国際基準に合致する安全性を確保した設備が課題となっている。

2. 輸出事業計画の取組内容

既存商品の輸出量拡大に加え、原材料の一部国産化や形状や商品状態にバリエーションをもたせた新しいプラントベースドフードに取り組むことにより、商品の面(選択肢)を広げ、更なる輸出拡大を図る。そのために、新しいプラントベースドフードの製造に必要な下記の点に取り組んでいく。

- ①現在の乾燥タイプとは異なった新たな商品バリエーションを生み出す製造設備を新設。
(立体成型機を利用した肉形状の種類増加、原料や加工レベルでの他社差別化)
- ②既存工場で取得済みである国際認証『FSSC22000』を、新設備においても取得。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制

- ①販売量拡大の実証：海外輸出売上高および輸出先国数の拡大。
⇒P・D…JETRO商談会や亀田製菓グループ会社の商流を通じた販売拡大。
C・A…上記企業からの商品品質や商流改善に関するフィードバック、必要に応じて計画見直し。
- ②商品バリエーションの増加：NB商品およびPB商品の商品数増加。
P・D…新設備を活用した自社での商品開発に加え、亀田製菓本社の技術チームと連携。
C・A…顧客より商品品質に対する要望や評価をフィードバック、即座に反映させて開発スピードアップ。

4. 輸出目標額

	【現状】 令和2年度	【目標】 令和9年度
輸出額	2,013千円	120,000千円
主な輸出先	アメリカ・香港	アメリカ・アジア圏

今後はプラントベースドフード最大市場のアメリカに加え、植物性代替商品への機運が大きく高まるアジア圏(香港、タイ、シンガポール等)への商流を目指す。